

# 新病院ニュース Vol.8

令和8(2026)年11月の竣工に向けて  
工事の進捗状況などをお知らせします!

令和7年10月12日

<お問合せ先>

野洲病院新病院整備課

〒520-2331 小篠原 1094

電話 077-587-6141

Fax 077-587-5004



## 新病院の名称を「市立野洲地域医療センター」で検討しています

### ◆◆ みなさんのご意見をお寄せください ◆◆

新病院の正式な名称を検討しています。今まで用いてきた「野洲市民病院」は平成28年に条例で定められた名称ですが、令和4年に一旦削除され、現状は未定となっています。令和9年3月の開院を1年半後にひかえ、今年12月の市議会で正式な名称を定める必要があることから、市民・医療圏における役割、行おうとする医療、そのほか近年のトレンドなどをもとに、現時点では、『市立野洲地域医療センター』を第一候補に検討しています。



#### ▶理由:

- 近年では、それぞれの病院が、救急のレベルや得意とする医療分野を基に、医療圏域ごとで分担する形となっており、新病院については、整形外科とリハビリテーションに優位性を持った地域の中核病院になることや、高度急性期医療と在宅との間を繋ぐ役割を担う『地域完結型』の病院になることをめざしています。「市民病院」は、親しみやすい名称ですが、多くの診療科を取りそろえた従来型の「自院完結型」の総合病院というイメージが比較的強く残っているのではないかと考えたところです。
- また、新病院では、高齢者に多い複数疾患の患者を診る「総合診療」と、地域に出向く「訪問診療」、そして疾病や介護予防を行う地域「コミュニティ・ホスピタル」となることをめざしています。このように、新病院のキーワードは「地域」・「地域医療」なのです。

#### ▶ご意見をお寄せください!

(ご意見は11月3日までをお願いします)

新病院の名称を『市立野洲地域医療センター』とすることについて、ご意見をお寄せください。右の二次元コードからのメール、市役所玄関または野洲病院ロビーに設置している投書箱、または郵送やファックスをご利用ください。



### ◆◆ 櫻本市長が建設現場を視察しました! ◆◆

現場で説明を受ける櫻本市長と前川病院長



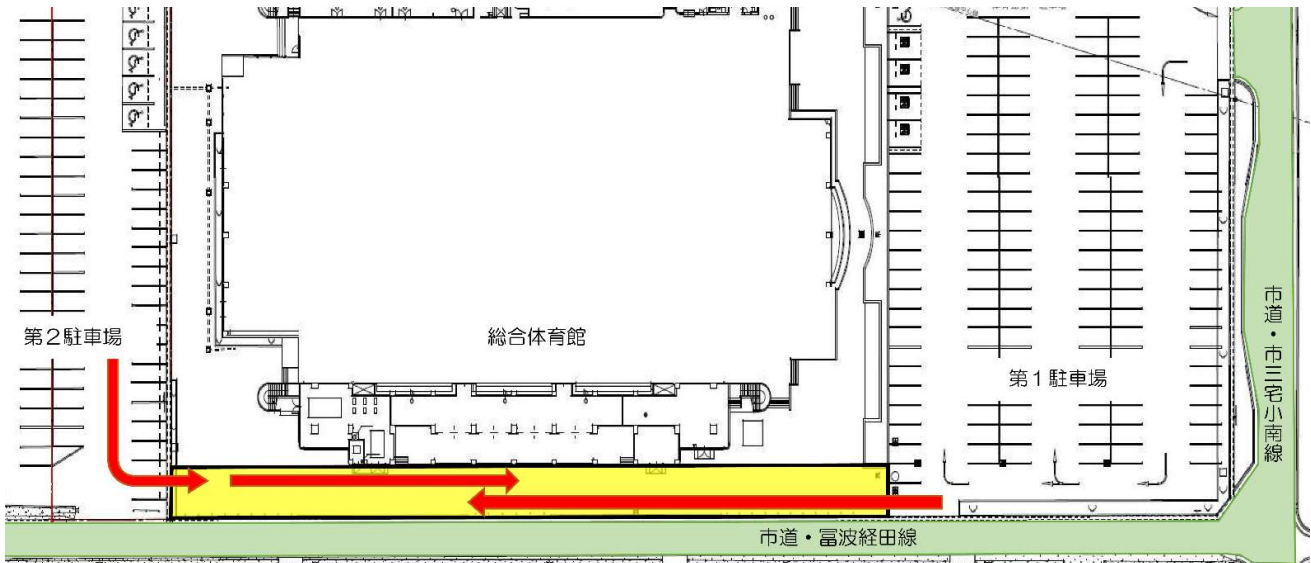
左：櫻本市長、中央：前川病院長

10月2日、櫻本市長は、前川病院長とともに新病院の建設現場を視察し、工事の進捗状況や今後のスケジュールなどの説明を受けました。櫻本市長は整備事業者に対し、「新病院は市民からの期待が大きい。順調に工事を進めていただいている。事故等に気を付けながら、完成まで引き続きよろしく願いいたします。」と申されました。

【裏面に続きます】

## ◆◆ 新病院の設計内容を紹介します！（駐車場） ◆◆

現状では、総合体育館の前面にある第1駐車場（150台）と、総合体育館の裏側の第2駐車場（320台）の間を行き来するには、一度敷地外に出なければなりません。新しい病院整備に合わせて、両駐車場の融通をよくするため、両方の駐車場を繋ぐ通路を整備します。



### ○当面の工事日程

10月	防火水槽・オイルタンク・設備配管工事など （国スポ・障スポ開催日は工事を休止します）
11月 ～	上部鉄骨・上部躯体工事

## ----- 歴史の井戸辺 医事にまつわる野洲の歴史散策 第6回 -----

現在の野洲市北に、北村宗龍（1552～1643年）という人物がいた。彼こそが曲直瀬道三に医学を学び、その医学を野洲にもたらした人物である。

宗龍の親族には有名な人物が何人か存在する。その一人は、宗龍の妻の父であり、豊臣秀吉の五奉行の一人となった長束正家（1562?～1600年）である。長束正家は、1595年に水口岡山城の城主となり、関ヶ原の合戦では西軍につき、合戦後に果てた人物である。この人脈によるものかは不明であるが、宗龍は、同じく秀吉五奉行の一人である前田玄以から、医師として招致したい旨の親書を受け取っている。宗龍が、当時の秀吉政権の中枢に限りなく近い場所にいたことを表すできごとではないだろうか。

宗龍は、道三だけでなく、その養子で医師であった玄朔（二代目・曲直瀬道三）とも親交があった。1595年に豊臣秀次が失脚した際に、玄朔も連座して蟄居したことがあったが、その際にも交流は続いていた。宗龍は、曲直瀬門下の医師として活躍していたのである。



水口岡山城跡（甲賀市）から三上山方面を望む

### 【参考文献】

・大谷雅彦編著『北村宗龍 埋もれていた近江の医聖』1986年